

# これがオススメ! 読み聞かせ本

低・中学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

1回読み切りの絵本と違い、何日も読み継いでいく物語は、たとえ担任が良いと思っても選んでも子どもの気持ちに添わないと、読んでいて落ち着かなくなりそうです。この本も、初めは「どうかかな」と担任もドキドキでした。でもこの年の3年生への「読み語り」のベストワンに選ばれたのです。

寒く厳しい北極に住む双子のクマ、ムーシカミーシカ。2匹の冒険、失敗、友情は聞いている子どもたちの心を寒い北極に連れて行き、共に冒険しているような気持ちにしてくれたようでした。読み進める先生の声に夢中です。

主人公たちの父親（ものしりムー）は2匹が生まれる前に出かけています。北極クマは冬の間に乗って好きな所へ行けるのですが、子どもを産む母クマは雪の下の穴の中で一匹で子を産み守っていく

のです。小さい双子のクマはお母さんをハラハラさせながらも、「こんなに小さいのにわるいものにはむかっていくし、よわいものにはやさしいもの」と白鳥のお兄さんに言ってもらうまでに成長していきます。

北極の海の厳しい様子、次々に起こる他の動物や恐ろしい人間との出来事。「夏には強い父親が帰ってくるんだ」と、主人公と一緒に、子どもたちも帰りを待つ心境になっていきます。白い大きなクマが出現し、それが父親だとわかるくだりでは、子どもたちは周りを見わたし、友達と「やっばり」と小声でうなずき合っていました。「読んで良かった!」と思える瞬間です。

クラスの子どもの心をつとにまとめる物語に、また出会うことができましたと思います。



北極のムーシカミーシカ  
いぬいとみこ/作・瀬川康男/絵  
(理論社)